



不登校の児童生徒の保護者のみなさんにお便りします

# やまびこ



兵庫県立但馬やまびこの郷

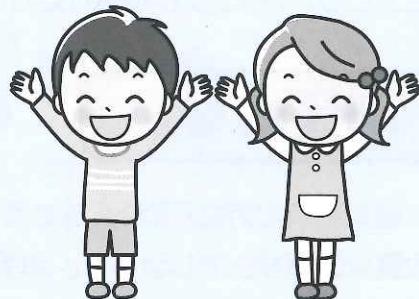
<http://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/>  
E-Mail : Tajimayamabiko@pref.hyogo.lg.jp

## 不登校についての国の取組

近年、不登校についての国の取組に大きな変化がありました。一つは、「不登校児童生徒への支援の在り方について」の通知、もう一つは「教育機会確保法」の成立です。保護者のみなさんにご紹介します。

### 文部科学省通知「不登校児童生徒への支援の在り方について」

平成28年7月に、「不登校に関する調査研究協力者会議」より「不登校とは、多様な要因・背景により、結果として不登校状態になっているということであり、その行為を『問題行動』と判断してはならない。不登校児童生徒が悪いという根強い偏見を払拭し、学校・家庭・社会が不登校児童生徒に寄り添い共感的理解と受容の姿勢を持つことが（略）結果として児童生徒の社会的自立につながることが期待される」という報告が出されました。



本通知は、この報告に基づき、不登校児童生徒への支援についてまとめたもので、平成28年9月に発出されました。各学校に対して「効果的な支援の充実」「多様な教育機会の確保」「中学校卒業後の支援」等、各教育委員会に対して「不登校や長期欠席の早期把握と取組」「教育条件等の整備」等の取組の充実を図るように記されています。

### 教育機会確保法（義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律）

不登校の子どもたちの支援を進めることを目的とした「教育機会確保法」が、平成29年2月に施行されました。同法では、不登校児童生徒を「相当の期間学校を欠席する児童生徒であって、学校における集団の生活に関する心理的な負担その他の事由のために就学が困難である状況」と定義した上で、「国及び地方公共団体は、不登校児童生徒が学校以外の場において行う多様で適切な学習活動の重要性に鑑み、個々の不登校児童生徒の休養の必要性を踏まえ・（略）」とあります。つまり、法律に「学校以外の場における学習活動の重要性」と「休むことの必要性」について明記されたのです。



法律で「休むことの必要性」を認められたことには、大きな意味があるのではないかと考えます。

# まこさんからのメッセージ

## 頑張らない・ 頑張るとき・頑張れば



兵庫県立但馬やまびこの郷所長 佐 藤 真 子

テレビをみていて思うのですが、スポーツ番組に限らず、お笑い番組でも、バラエティ番組でも、「頑張る」という言葉がしばしば出演者から語られます。私たち日本人は、よほど「頑張る」という言葉が好きなのでしょうか。「日本人は」と書いたのは、この言葉が誤解を招いたという話を知ったからです。野球の外国人選手に監督が「頑張れ」と言い、通訳が「ドゥー・ユア・ベスト」と訳して伝えたら、その外国人が「ベストを尽くしていないというのか」と気色ばんだというのです（中井久夫集3『頑張れ』と『グッド・ラック』、みすず書房、2017）。考えたら、自分でも「きょうは頑張った」とか、「もう少し頑張れたかも・・」とか、確かによく使う言葉であることに気づかされます。

### 頑張らない



被災された方に「『頑張ってください』と言ってはいけない」と言われ始めたのは、阪神・淡路大震災の頃からでしょうか。頑張れと言われても、何をどう頑張ればいいのか、気持ちは精一杯頑張っているのだから、もうこれ以上は頑張れません。「もっと頑張れということなのですか？」癌の患者さんやうつ病の患者さんに頑張れと言って励ましてはいけないということも、一般に行き渡ったように思いますが、ついつい「頑張って」と口にしてしまうことがあって、「しまった」と後悔したりします。

子どもたちの保護者の方とお話ししても、頑張る、頑張らないという言葉がしばしば登場します。「小さいときは、サッカーを頑張っていたのですが」「家ではゴロゴロばかりしていて、ちっとも頑張らないんです」等々。先日ある不登校の子どものお父さまとお話ししていたら、息子がちっとも頑張らないという話を何度も繰り返し、「なんで頑張らないんでしょうね」と不満そうにおっしゃいました。「いえいえ、よく頑張っていると思いますよ」と口にしようかと思いましたが、そのまま申し上げてなかなかわかっていないだけないだろうと思い、「心の中は目に見えませんから」とあいまいな言い方をしてしまいました。

とりわけ思春期の子どもは、その時期を生きているだけで、それだけで十分頑張っているということなのではないでしょうか？

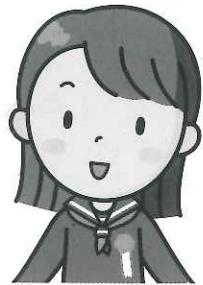
だから、部活の朝練習に参加できなくとも、英単語を繰り返し暗記しなくとも、とにかく子どもたちは精一杯「頑張って」生きていると思うのです。



## 頑張るとき



「そんな辛いことがあったんだったら、学校に行けなくなっても仕方ないね」と私が思わず言ったとき、女の子は「でもそんなことで学校を休んでいいかと思って、頑張って学校に通っていました」と話しだしました。「毎日頑張って、でもそのうちに、朝になるとお腹が痛くなって、トイレに駆け込んで、頭も痛くなつて」「それは大変だったのね」と私。「でも、頑張りました。少し遅れてでも登校して、部活もやって」と、とことん頑張る話が続きます。この子が恐れていたのは、家族の、あるいは教師の、問いただすような視線。「本当に、お腹が痛いの?」「いじめられたって言ってたけど、本当?」



不登校の子どもは、誰もがというわけではないかもしれません、しばしば頑張りすぎる子どもです。「毎日遠くの塾に通つて、夜あそくまで塾の宿題を仕上げようと努力していた子」、「吹奏楽部のリーダーで、下級生の指導に力を尽くしていた子」、「所属するバレーボール部が地区で優勝できるように練習にあけくれていた子」。「この子は頑張るときは、ものすごく頑張るんです」とお母さまやお父さまがあっしゃるとき、それはどこか誇らしげですが、人間には疲れや怠け心があつてもよいので（あるのが普通）、「適当に」「いい加減（よい加減）に」やれる能力をほめるくらいのことは、親として心がけてもいいように思います。子どもが「きょうは休みたい」と言つたら、「上手にさぼるのも力量のうちやん・・」とか言って。。。

## 頑張れば



未然形（頑張らない）と連体形（頑張るとき）の後は、仮定形（頑張れば）について考えたいと思います。あるお医者さまが「患者さんに、頑張らなくてよいと言つたら、見放されたと思う人がいるので、頑張ってもいいけど、頑張りすぎないようにと言うようにしている」と言われるのを聞いたことがあります。でも、ほどほどに頑張るというのは、なかなか難しいことかもしれません。どこまで行くと頑張りすぎなのか、もうちょっと「頑張れば頑張れそう」だけど、そこまで頑張らないでほどほどにしておく。これは私たち（凡人）が普段行っている身の処し方なのですが、不登校になる子には、先に述べたような頑張りすぎるタイプの子が少なからずいるように思います。

普通に登校していた時期があったのにとか、あんなに頑張っていたのにとかという気持ちが親にはあって、何とか早く登校させたいと願うのは当然の親心かもしれません。「あなたは頑張れば頑張れるはずなのに」とついついチクチク言いたくなります。でも、子どもだって、好きで学校を休んでいるわけではない。ゲームにふけっている子でも、楽しくて仕方がないというわけではないのです。「頑張れば頑張れるのなら、いつか頑張ればいい」、「それでいいよ、大丈夫」と言ったオptyism（楽観主義）を親が持つことは、子どもの安心を保障し、より積極的になることを助けます。

何が不登校につながるのか。学校生活が、家庭が、あるいは自身の内面が、子どもたちに重くのしかかっていることは確かなのですが、内容は多彩で多様です。

最初の野球の選手の話にもどりますが、通訳はそれ以後、「頑張れ」を「グッド・ラック」と訳すようになったそうです。すでに子どもたちは十分に頑張っています。だから、後は皆で幸運を祈ることにしたいと、そんなふうに私は思います。

# 地域やまびこ教室に 参加してみませんか

不登校の子どもたちの学校復帰のためには、まず心と体を元気にすることが必要です。自宅から遠く、但馬やまびこの郷での体験活動に参加しにくい子どもたちのために、県内6カ所で「地域やまびこ教室」を実施しています。カヌーやスポーツなど、当所では体験できない各施設の特色を生かしたプログラムを用意しています。ぜひ参加いただき、子どもも親もエネルギーをいっぱいいためて、次の一步を踏み出すきっかけにしてみませんか。当所のホームページで開催要項・申込書等をダウンロードできますので、ご希望の方はお申し込み下さい。



第6回 10月31日(火) 県立但馬ドーム(豊岡市)【ニュースポーツ体験など】

第7回 11月 2日(木) 県立海洋体育館(芦屋市)【カヌー・カヤック体験など】

※第1回、第2回、第4回、第5回は終了しました。第3回は台風のため第7回に変更となりました。

## 参加者からの声



今年度実施した、地域やまびこ教室の感想を紹介します。

### 【子どもたちの声】

- ・みんなと仲良くすることができて良かった。
- ・家でゲームなどをしているときより、みんなでいろいろなことができて楽しかった。
- ・中学校生活最後の地域やまびこ教室に参加して、新しい友だちができたことが嬉しかった。



### 【保護者の声】

- ・高校進学など不安だったが、みなさんの体験を聞くことができた。
- ・共感することが多く安心した。子どもへの接し方を改めて考えさせられた。
- ・親にとってもリフレッシュできた。
- ・みんなの話を聞き、肩の力が抜けた。



- ・自然の中で生き生きとした子どもの姿を見ることができた。
- ・久しぶりに子どもの輝いた笑顔を見ることができて嬉しかった。
- ・普段は家の中に閉じこもり、ケータイばかりしているが、自然にふれて友だちとかかわる中で少しでも変わってくれれば嬉しい。
- ・保護者交流会では、みんな同じようなことで悩み、いろいろと模索しながら解決策を見つけ出されているのだと感じた。

